

令和5年度 第4回 双葉小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月3日（木）14時30分から16時00分
- 2 開催場所 双葉小学校 学習室
- 3 出席委員 河邊 忠一、平岡 廣二、加藤 泰弘、伊東 敏郎、水野 久美子
大羽 恵子、蓑 悦子、木村 理、伊藤 篤志、
- 4 欠席委員 冨田 秀仁
- 5 学 校 藤井 隆志（校長）、滝川 宏美（教頭）、浅井 功平（教務主任）
加美 美紀（CSディレクター）
- 6 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 加美 美紀
- 9 議長の選出

司会の教頭から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、加藤委員を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 学校関係者評価
- (2) 学校運営協議会の自己評価
- (3) 来年度の学校運営の基本方針の説明
- (4) 夢育やらまいかCS加算分の報告
- (5) 学校からの提案（学校支援ボランティア、来年度の学校運営協議会の持ち方）

11 会議記録

司会から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価

議長の指示により、校長から、令和5年度学校評価アンケート集計結果について説明があった。結果には、先生方は子供たちが前向きに学校生活を送れるように取り組み、子供たちは先生からの投げ掛けを受け止めながら、自主的に学校生活を進めてきた様子が見られ、おおむね良好な結果が表れている。来年度に向けて、大まかなところは引き継ぎ、改善すべきところは変えていかねばならないと思うとの報告があった。また、いじめについても保護者への対応に迫られるものはなく、今後もいじめにつながる言動を見逃さずに指導していくとの報告があった。

委員からは以下の発言があった。

- 学校評価アンケートはどの学校でも行っているのか、質問は学校によって異なるのか。アンケートの結果は学年によって大きく差が出ているのか。児童（特に低学年）

は、アンケートの質問の意味を理解しているのだろうか。また、アンケート「⑥落ち着いた生活をしている」は学校内の様子のことなのか、家での様子を含めてのことだろうか。(木村委員)

- 全ての学校で行われており、質問は学校独自で設定されている。(校長)
- アンケート結果についてはタブレットで集計しているが、学年の差や偏りはそこまで大きくはない。質問の文言は低学年、高学年もほぼ同じものを使っている。(教務主任)
- 低学年は「落ち着いた生活をするためには、何ができたらよいか」を話し合ったことがあり、高学年はアンケートに対して特に指示は出さず、一人で答えている。(1年生、5年生担任)
- 「落ち着いた生活・・・」については来年度以降、見直す方向で考えている。(校長)
- アンケートの配点が分かりにくく、標準がどれくらいなのか分からない。(伊東委員)
 - アンケートは点数換算をしておらず、「とてもそう思う、まあそう思う」の合計をパーセンテージで表している。(教務主任)
- 保護者の数値が低めなのが気になる。学校に対してバイアスがかかっているのではないか。本年度は校内の様子が落ち着いていたと思う。(大羽委員)
 - 学校から保護者に対しては、結果や成果ではなくプロセスをどう伝えるかが大切だと考えている。なるべく保護者と連絡を取り、校内を公開しブログの発信を行っているがそれも限界がある。保護者への理解がずれるともやもやが残るので、何かアイデアがいただけたらと思っている。(校長)
- 次年度に向けての改善策で「体元気がいっぱい ・落ち着いた生活を送っている姿のイメージを共有する。」とあるが、元気がいっぱいと落ち着いた生活の整合性がないように思う。(河邊委員)
 - 学校では体育的な活動として、週に一度は外に出る機会を作ることに取り組んでいる。外に出ることが心を落ち着かせる手段のひとつと考えている。(校長)
- 先生方のこまめな対応が想像できる、アンケート結果であった。(加藤委員)

(2) 学校運営協議会の自己評価

自己評価表の<評価項目4>今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標をまとめ、来年度に向けて目標を決定していくことで全員一致した。

(3) 来年度の学校運営の基本方針の説明

議長の指示により、校長より「令和6年度学校経営方針(案)について」説明があった。別紙の資料に基づき、令和6年度の学校目標とランドデザインが発表され、全校をあげて達成を目指していきたいとの説明があった。

委員からは以下の発言があった。

- 資料に「子供たち一人一人のウェルビーイングの実現を目指して」とあるが、もう少し私たちになじむような説明が欲しい。(加藤委員)
 - 一言でいえば、まわりの人と共に幸せを追求していくこと。子供たち一人一人が自分も幸せだが周りも幸せだと感じ、安心していただけることを実感できるようにしたい。(校長)

(4) 夢育やらまいかCS加算分の報告

議長の指示により、教頭から双葉小における「夢育やらまいか事業」としてのキッズチャレンジ・ビジネスにおける製作、販売活動の費用について詳しく説明があった。また、校長から、これからも結果よりもプロセスに意味がある、意味のあるプロセスを踏めるキッズチャレンジであってほしいと願うとの話があった。

(5) 学校からの提案（学校支援ボランティア、来年度の学校運営協議会の持ち方）

議長の指示により、教頭から別紙に基づき「学校支援ボランティア登録のお願い」について説明があった。学校支援ボランティアについて同意してもらう方に、登録をしてもらう形を考えている。また、校長より、来年度はこの運営協議会を年に4回から5回に変更し、年に1回は職員が参加する形にしたいとの報告があった。

<報告事項>

木村委員より、12月に行われた「令和5年度キッズチャレンジ意見交換会」についての報告があった。内容は、令和4年度の意見交換会であがった反省点、改善点を活かしたこと、次年度もボランティアの継続を図り、販売当日もボランティアの要請をしたいとのことだった。

<その他連絡事項>

教頭から次回会議は、令和6年4月26日（金）14：30～16：30 会議室で行い、来年度の熟議内容についての説明があった。